

# 日本鐵鋼協會第十九回通常總會記事

## I. 開 會 之 辭

社團法人 日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 驥

本會第 19 回の總會に當りまして、例に依り過去 1 ケ年の鐵鋼界の狀勢を回顧いたしますと、一般工業界殊に軍需工業の好況に伴ひまして基礎工業たる鐵鋼業は必要なる材料の供給上近年稀なる好況に恵まれて、需要は増加し市價は高値を持続し、銑鐵に於ても、鋼材に於ても、其産額は從來のレコードを突破して居るのであります。銑鐵に於きましては昨年の産額は滿洲、朝鮮を含み、203 萬噸に上つて居ります、之を昭和 7 年度の 154 萬噸に比較しますと 49 萬噸、乃ち約 3 割 2 分の増進に當つて居ります。又鋼塊の産出に於きましては 304 萬噸でありまして、之を一昨年の産額 239 萬噸に比較いたしますと、65 萬噸、乃ち 27 パーセントの増加に當つて居ります、一方外國に於きましても昨年度は何れも相當の増産を致して居りまして、此處に表示致しました通り、何れも皆相當の増産を致して居ります、能く言ふ所の「景氣は鐵から」と云ふ言葉が眞實なものと致しますと、世界的に稍々經濟界回復の徴を示して居るやうにも考へられるのであります、此表に依つて見ますと、この表は昭和 4 年、1929 年より昭和 8 年(1933 年)に至る 5 箇年間の中最大生産量を示しました昭和

露 西 亞	4,901	5,639	5,348	5,884	6,604
	100%	115	109	120	135
日 本	2,294	2,239	1,883	2,328	3,047
	100%	100	82	105	133

備考 太字は 1929 年の産出に對する百分率を示す

4 年の産額を 100 とし其以後各年度に於ける産出狀況を比較したものであります露西亞を除きますと、諸外國の經濟界の回復と云ふことはまだまだ前途遼遠なるものがあるやうに考へられるのであります。

(露西亞の増産は多數國民の慘澹たる犠牲の下に於て行ひました專制的の極めて突飛なる重工業 5 箇年計畫の完成によるものと考へられますから、是は別とし)、我國の増産割合が諸外國に較べて著しく高率を示して居る事が分るのであります。此我國の増産は特に時局に恵まれました賜物であります、餘りに急激に需要が増加した爲に、斯の如き増産を以ちましてもまだ之に對應することが出来ません、銑鐵に於ては昭和 7 年度の輸入が約 12 萬 2,000 噸(滿洲以外の分)に對し、昭和 8 年は 18 萬 5,000 噸であり又鋼材の輸入に於ては昭和 7 年度は 23 萬噸であつたものが、昭和 8 年度は 39 萬 8,000 噸に上りました其外製鋼原料としての屑鐵の輸入が 7 年度の 55 萬 9,000 噸に對し、8 年度は 101 萬 2,000 噸の多額に達して居るのであります、斯の如き需要の急増に應ずる爲には、兩 3 年前の不況の爲に休止中の設備は續々と復活を見まして今日に於ては總ての設備が殆どフルに働いて居るのでありますけれども、其復活の道行に於きまして昨年の急な需要増加に應ずることが出来ませぬので、輸入の増加を餘儀なくされたものと考へらるゝのであります、昨今に於きましては獨り此休止中の設備の復活に止らず、積極的に設備の擴張、又は新設が各工場に於て計畫されて居りまして、熔鑛爐、平爐、電氣爐を初め、各種壓延工場の新設、増設計畫の報道は日々の新聞紙上に賑はし、一々茲に枚擧する追がない有様であります、就中昨年中に於ける八幡製鐵所の 700 噸熔鑛爐の竣工、竝に本年度に至りまして同所に於て製造開始を見ます所のブリキ板工場の新設、滿洲の昭和製鋼所の大規模なる製鋼所の工事着手、昭和鋼管の鋼管製

I、最近 5 箇年各國銑鐵産額比較表 (單位 100 噸)

年次 國名	1929	1930	1931	1932	1933
北米合衆國	24,946 100%	31,944 74	18,555 43	8,813 20	13,292 31
英 吉 利	7,701 100%	6,296 82	3,818 50	3,630 47	4,166 54
佛 蘭 西	10,361 100%	10,032 97	8,197 79	5,535 53	6,365 61
獨 逸	13,398 100%	9,693 72	6,061 45	3,933 29	5,217 39
露 西 亞	3,972 100%	5,012 126	4,877 123	6,207 145	7,112 180
日 本	1,561 100%	1,637 103	1,424 91	1,541 99	2,031 131

II、最近 5 箇年各國鋼産額比較表 (單位 1000 噸)

年次 國名	1929	1930	1931	1932	1933
北米合衆國	56,540 100%	40,923 72	26,040 47	13,716 24	23,385 41
英 吉 利	9,809 100%	7,416 76	5,262 54	5,341 54	7,092 72
佛 蘭 西	9,697 100%	9,445 97	7,820 81	5,639 58	6,539 68
獨 逸	16,242 100%	11,536 71	8,290 51	5,769 36	7,549 46

造設備の新設等は注目に値するものであります、が昨年中の鐵鋼界に於ける劃期的の進展は何んと言つても合同日本製鐵會社の出現に指を屈せねばなりません、で私は茲に第三者の立場と致しまして、公平と自ら信ずる所に依りまして、合同問題の今日に至りました由來に付て少しく言及して見たいと考へます。

本邦の製鐵合同問題は溯つて之を考へます、實に我國30餘年來の懸案とも申すべきものであります、既に明治35年に設置されました製鐵調査會に於て、「官立製鐵ハ之ヲ廢シテ日本製鐵株式會社ヲ創立スベシ」、と云ふ答申があるのであります、是は其當時、創業開始當初に於ける八幡製鐵所の成績が甚だ不振であつた爲に斯かる案が出現したものでありまして、當時としては是は少しく行き過ぎたる感じはありますが、既に其時分から日本製鐵會社案と云ふものが萌芽を發したものと見ることが出来ると思ひます、超えて大正5年の製鐵事業調査會に於ては、政府の諮問に對して、「官民製鐵事業ノ調和ヲ圖ルベシ」、と云ふ答申があるのであります、之は製鐵事業の如き國家的重要な基礎産業は、官民相對立して無益なる競争をなし、乃至は壓迫等をなすべきものに非ずして、官と言はず、民と言はず互に協調して一様に國家の製鐵事業として其發展を期すべきものであると云ふ趣意に外ならぬと考へます、次で大正10年の臨時財政經濟調査會に於ける審議の結果に依りますと、「製鐵事業ハ之ヲ合同經營スルノ必要ヲ認ム」とありまして、茲に始めて合同經營と云ふ文字が劃然と公表されて居るのであります、未だ實行の方法に對しては具體的な進展を見なかつたのであります、其後大正14年に三派内閣時代であります、高橋是清氏が農商務大臣として、製鐵鋼調査會が開かれ、其答申書に於て「本邦製鐵事業ハ八幡ヲ中心トセル半官半民ノ合同ニ依ルヲ可ナリト認ム、因ツテ準備完了ヲ俟ツテ成ルベク速ニ之ヲ實行スルコト」、とありまして、是は明かに合同經營に對して數歩を進めたものと見られるのであります、即ち合同經營の如き大事業に對しては種々なる準備行爲をなすを必要と致しますから其準備行爲の完了を俟つて成るべく速に實行に移すと云ふことでありまして、其準備行爲としての主なる項目は第一、八幡製鐵所に官民連絡の爲に特定の機關を設くること、第二、原料生産販賣、又は經營に關する共同機關を設くること、第三、銑鋼共に相當の保護關稅を設くること、と云ふこと其他でありまして、要するに官民製鐵所の間に協調

機關を設けて、お互の業態を明かにし、相互の意思を疏通し、共同の施設に依りまして事業の統制を圖り、無益なる競争を避け、且つ發達の途上にある製鐵業の保護獎勵をなすべしと云ふことが其要旨であらうと考へるのであります、次で片岡直溫氏が商工大臣となられまして此製鐵鋼調査會の趣意に順應して、大正15年の議會に於きまして、先づ製鐵事業獎勵法を改正して、保護を厚くすると同時に、八幡製鐵所を特別會計に移して其營業狀態を鮮明ならしむることとし、同時に官民製鐵業者に勸奨して互に協調の實を擧げる爲に共同機關を設けることに致しました、其結果として鐵鋼協議會が成立し、且つ銑鐵共同販賣並に各種鋼材別の生産分野の協定、及び共同販賣の機關が次から次へと設立されました、之に依つて一方保護獎勵を與へて、製鐵鋼業者の當時の苦境を輕減し、他方官民事業の内容を検討し、意思疏通の便を圖り、以て合同に關する準備工作とせられたのであります、次で依、櫻内兩商工大臣の時代に於きましても、いろいろと合同に對して調査劃策せられたのであります、未だ具體的の進行を見ませぬでしたけれども、此兩大臣案と云ふものは半官半民の組織よりも更に一步を進めて、民營的の株式會社組織とすることに定められましたことは一進歩と考へる次第であります、詰り合同と云ふことが今年の始めに至り中島商工大臣の手に依つて出來ましたけれども、其源に溯つて考へると云ふと、30年來歴代の内閣諸公が基礎工業たる鐵鋼業の使命と貿易の均衡上並に國防上の心要とを能く認識せられ其基礎を鞏固ならしむべく如何に努力されたかと云ふことを窺ふことが出来るのであります、就中大正14年高橋農商務大臣並に同15年の片岡商工大臣の處置宜しきを得たことが製鐵業の今日ある上に於て著大なる原因をなしたものでありまして、兩大臣並に其當時に於ける調査委員諸君の功勞は没すべからざるものと考へる次第であります、斯の如くして製鐵合同法案は昨年の64議會を通過後4月6日法律第47號を以て公布せられ、次で9月25日會社設立委員、並に評價審査委員の決定を見まして昨年末に至りまして第一次合同に参加す可き工場の範圍も決定し、本年1月29日に創立總會が開催され、2月1日から營業開始の運びに至つたことは皆さん御承知の通りであります、今此合同の特質を擧げて見ますと、從來、内外國に於て行はれました合同の多くは不況時の切掛け策として劃策された場合が多いのであります、が今回の合同が鐵鋼の最も好況な

る時期に於きまして出来たと云ふことは、是は特筆すべきことであり、今日に於ては各製鐵工場の經營と云ふものは鐵と謂はず鋼と謂はず何れも充分なる利益を擧げて、稼ぎ高が最も多い時期に遭遇して居るのであります、それ故に若し今日に於きまして所謂稼ぎ高を主なる標準としまして、今日の利益から逆算して評價いたしましたならば、それこそ非常な水膨れとなりまして、將來に對して禍根を残すものであります、今回合同に参加されました諸工場に於ては目前の小利に拘泥せず、將來永遠の本邦製鐵國策の樹立上の見地から少なからぬ犠牲を忍んで協調せられたといふことは推稱に値ひすることゝ考へるのであります、で今日合同に漏れたる諸工場に於かれましても能く大局を達觀せられて、或は地方的に、或は資本的に小合同、中合同の階段を経て、遂に此大合同に邁進し、以て本邦製鐵工業の統制、合理化を完成されむことは希望に堪へざる次第であります、今後合同日本製鐵株式會社の當局の方々は勿論經營上、技術上の合理化と、統制とを行ひ、生産量の増加、生産費の遞減、品質の改善、販賣の統制、輸出の増進等、凡ゆる方面に對しまして着々御盡力あることゝ信じて疑はざる所であり、更に我國の製鐵界の今日の狀勢から申しますと第一、現在に於ては尙ほ此合同會社の外にアウト・サイダーとしての有力なる會社も多數存在することであり、其間共存共榮の理想に基き圓滿なる協調を保たれむこと、第二、には將來の日本の鐵鋼の需要は此表でも分る通り近年著しく増進したと言ひながら、各國の疲弊し切つた年の數字よりもまだ遙に少ないのでありますから、將來國運の進展と共に鐵鋼業は益々發達して行かなければなりません、今日の趨勢から見ますと云ふと、十數年を出でずして、我國の産額は年額500萬噸に達する

ことは疑を容れざる所であり、故に原料たる鐵鑛、石炭、殊に製鐵用石炭の資源確保に付きましては今後一層充分なる調査研究を進められる必要があると考へます、第三には經營上に於ては配當率を常に最小限度に止め、成るべく社内保留金を多くし、以て將來の新設、擴張、又は不況時に備へること、第四、販賣に於きましては獨占事業の弊に陥らざること、即ち優良なる品質の物を多量に安價に供給して、需要者をして外國品を使用するよりも内地品を使用するの利益を享受せしむるやうに努められること、第五、販賣に於きましては努めて中間の手數と費用とを省いて需要者の便利を圖ること、等は本事業の圓滿なる進展と、他の諸工業との共存共榮の原則から申しましても緊要なる措置と考へられるのであり、是亦當局の方々に於て御盡力下さることゝ深く信ずる次第であります、要するに此合同問題は我國多年の懸案であり、今日に於て遂に其第一次合同を見ましたことは、世間種々議論をなす者もありますが、大局上より觀察して誠に慶賀の次第であります、殊に其局に當つて奮闘せられました方々、並に此成立した合同會社の幹部の大部分の方（重役の75パーセント）は本會の有力なる會員であると云ふことは本會の最も欣快とする所であると同時に、近代的の製鐵事業の經營の基礎は何んと言つても學術、技術の振興に俟たねばならぬのでありますから、是が振興機關たる本會の責務も亦當然増大すべきものと考へるのであります、どうか今後本會の役員、會員諸君一致協力して年一年と本會の向上發展に努め、本會の使命に邁進せられむことを希望して止まざる次第であります、時恰も役員改選期に際しまして、此終りのことを特に強調いたしまして、以上を以て開會の辭に代へる次第であります。（拍手）

## II. 議 事

### 昭和八年度會務報告

（自昭和八年三月一日 至昭和九年二月二十八日）

1、集 會 通常總會 1 回 理事會 13 回 評議員會 2 回  
服部博士記念資金委員會 1 回 編輯委員會 14 回 講演  
大會 2 回 研究部會 2 回

#### 2、會員異動

名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
	(7 口)				
入會者	2	7	43	183	235
退會者	1		19	19	39
死亡者			7	4	11
	+ 1 + 7		+ 17 +	160	+ 185

備考 1、本年度に於て加盟の維持會員次の如し

石原産業海運合資會社 1 口 日本鑛業株式會社 1 口  
中山製鋼所 1 口 黑崎窯業株式會社 1 口  
株式會社久保田鐵工所 1 口 九州製鋼株式會社 1 口  
吾孺精鋼所 1 口

ロ、改名者…………… 2

ハ、正會員より名譽會員に推薦…………… 2

ニ、准會員より正會員に變更者…………… 3 名

ホ、死亡者氏名

正會員 石橋毅君、井上太一君、大石源治君、金子與四郎君、村田素一郎君、黑板傳作君、  
准會員 井上喬君、堀田正夫君、難波靜夫君、廣瀬英夫君  
以上 11 氏を喪ひたるは痛惜の至りなり、猶以上諸氏の訃に接しては直に弔詞を呈し哀悼の意を表せり。

3、會員總數

	名譽會員	維持會員	贊助會員	正會員	准會員	計
昭和 9 年 2 月 28 日 現在	13	53 (口)	18	771	784	1,620
前年同期比較	+ 1	+ 7		+ 17	+ 160	+ 185

4、會誌發行及印刷物

- イ、本會々誌「鐵と鋼」は第 19 年第 3 號より第 20 年第 2 號迄毎月發行せり。
- ロ、鐵と鋼第 19 年特輯號臨時増刊として本會第 6 回 研究部會第 2 回製鋼部會記事を印刷し會員全般に配付せり。
- ハ、商工省鐵山局編纂「製鐵業參考資料」を私費印刷發行の許可を得「鐵と鋼附録」として會員全般に配付し又希望者へ分譲せり。
- ニ、日本鐵鋼協會第 10、第 11 回兩回講演大會に際しては其講演要録及前刷を作製し出席會員に頒布せり。

5、庶務事項

- 1、日本工學會評議員會の決議に係る工業博物館建設に關する調査委員本會より 1 名推薦方要求に對し次記の通り推薦せり。  
推薦委員 本會理事 工學博士 水谷叔彦君
- 2、名譽會員辭退の件、三井高棟氏より本會名譽會員辭退の申出あり事情不得已得を以て承認せり。
- 3、陸海軍兩省へ工場見學許可出願 本會第 11 回講演大會を名古屋市に於て舉行に付き同地の陸海軍關係工場見學出願し許可を得たり。
- 4、服部博士記念資金委員補缺 本會理事會に於て服部博士記念資金委員故種子田右八郎氏の補缺として川上義弘君を推薦せり
- 5、評議員補缺 評議員故大石源治氏の補缺として石原寅次郎君を評議員會に於て推薦せり。
- 6、日本鐵鋼協會倭博士記念資金取扱規則制定 本會へ倭工學博士功績記念委員會より金 5,000 圓也寄贈ありたるを以て同會の趣旨に基き之が取扱規則を制定せり (會誌鐵と鋼第 20 年第 2 號參照) (別項)
- 7、日本鐵鋼協會定款第一條中改正 (鐵と鋼第 20 年第 2 號參照) 本會理事會に於て事務所移轉を決議し從て定款第一條中改正の件を文部省に出願し許可ありたり。
- 8、日本鐵鋼協會定款施行細則改正、本會評議員會に於て定款細則第七條改正を決議せり、改正理由は會長選舉範圍に關する從來の疑義を一掃するにあり (鐵と鋼第 20 年第 2 號參照)
- 9、名譽會員推薦 本會評議員會は本邦製鐵鋼業の進歩發達に顯著なる功獻ある次の兩氏を名譽會員に推薦せり (鐵と鋼第 20 年第 2 號參照)  
日本製鐵株式會社々長 取締役兼取締役會長 中井勵作君  
日本製鐵株式會社 常務取締役 工學博士 野田鶴雄君
- 10、社團法人日本工學會理事長男爵古市公威閣下薨去に際しては弔詞及花環を贈呈し哀悼の意を表せり。

6、調査事項

イ、商工省臨時産業合理局工業品規格統一調査會より照會の次の事項に際しては審議の上夫々其都度回答せり。

照會事項

- (1) 鐵及鋼アルミニウム分析方法規格案
- (2) 鐵鑛中の鐵分析方法規格案
- (3) 鐵鑛中の化合物分析方法規格案
- (4) 鐵鑛中の珪酸分析方法規格案
- (5) 鐵鑛石及滿侖鑛石の試料採取方法規格案
- (6) 鐵鑛中の滿侖分析方法規格案
- (7) 鐵鑛中の磷分析方法規格案
- (8) ニツケルクローム鋼の規格案
- (9) 分析用ガラス器具の規格案
- (10) 石灰分析方法及試験方法規格案
- (11) 標準形鋼中の等邊山形鋼規格改正案
- (12) 標準形鋼中の不等邊山形鋼規格改正案
- (13) 標準形鋼中の溝形鋼規格改正案
- (14) 標準形鋼中の球頭山形鋼規格改正案

ロ、研究部會開催 本年度に於て開催の研究部會は次の如し

- 日本鐵鋼協會第 8 回研究部會  
第 4 回製鋼部會 鋼塊及壽型に關する問題
- 日本鐵鋼協會第 9 回研究部會  
第 5 回製鋼部會 電氣製鋼爐の操業並に構造に就きて改善すべき點如何。  
以上兩回共研究主題に關する資料を實際方面より蒐集し一括表を作製し出席委員に頒布して參考とせり (本研究部會の記事は目下編纂中にて追而會誌に上梓さるべし)

7、表彰

- イ、工學博士三島徳七君へ香村賞牌贈呈 本會香村博士寄贈資金取扱規則に基き昭和 8 年 4 月 3 日本會第 18 回通常總會に於て贈呈す (鐵と鋼第 19 年第 5 號參照)
- ロ、工學士西山彌太郎君へ服部賞牌贈呈 本會服部博士記念資金取扱規則に基き昭和 8 年 4 月 3 日本會第 18 回通常總會に於て贈呈す (鐵と鋼第 19 年第 5 號參照)
- ハ、服部賞金贈呈 本會服部博士記念資金取扱規則に基き 川本良行君、佐藤清吉君、蒔田宗次君、藤井鐵造君、小屋原總三郎君の 5 氏へ昭和 8 年 4 月 3 日本會第 18 回通常總會に於て贈呈せり (鐵と鋼第 19 年第 5 號參照)
- ニ、次期の服部賞牌並に服部賞金受領者決定 本年度の服部博士記念資金取扱委員會に於て推薦決定の受領者は別項推薦理由書の通りなり。

8、圖書寄贈を受けたる總數 (雜誌報告を含む).....1,430 部

9、講演會 本年度に於て開催せる講演會は東京に於て第 10 回講演大會、名古屋市に於て第 11 回講演大會の 2 回にして講演數總計 56 題なり其演題及講演者氏名次の如し。

第 10 回講演大會講演者並に演題

- 1、本邦産鑄物砂の耐久性及粘結部分の性質に就て (鑄物砂の研究第 3—4 報)  
旅順工科大学助教授 工學士 松塚清人君
- 2、高周波電動發電機使用 150kg 高周波電氣爐の研究  
芝浦製作所 技師 中村素君
- 3、壓延機のプレッパリングをローラーベアリングに改装したる結果に就て

- 川崎造船所製鉄工場技師 工學士 宗田 太郎君
- 4、鑄鐵の物理的性質に及ぼす燐の影響に就て  
(岩元、石黒、藤井、協同研究)  
横濱船渠株式会社 技師 石黒 一彦君
- 5、マグネシウムを含める鍛錬用輕合金に就て  
住友伸銅鋼管株式会社 技師 五十嵐 勇君
- 6、耐熱性アルミニウム輕合金の研究  
神戸製鋼所 技師 工學士 伊丹 榮一 郎君
- 7、アルミニウム亜鉛系 B 固溶體の共析變態に就て  
旅順工科大学教授 工學博士 今井 弘君  
萩谷 正己君
- 8、減磨合金に關する研究  
廣海軍工廠 技師 理學士 田崎 正浩君
- 9、内部組織研究用の新らしき X 線管球と其の應用  
大阪工業大學助教授 理學士 篠田 軍治君
- 10、鐵の機械的性質に及ぼす滿俺の影響  
明治專門學校教授 嘉村 平八君
- 11、剪斷機刃先の製造法に就て  
八幡製鐵所鋼材部員 黒瀬 彌君
- 12、繰返し熱應力に依る鑄鐵の龜裂發生現象に關する實驗  
三菱造船株式会社研究所 技師 理學博士 深川 庫造君
- 13、オーステナイト鑄鐵に就て  
日本ニッケル情報局 技師 Dr. Sc. 藤原 唯義君
- 14、鑄鐵の熱傳導率に就て(續報)  
戸畑鑄物株式会社 技師 理學博士 菊田 多利男君
- 15、鐵、炭素、酸素系反應接觸劑の共通性に就て  
東北帝國大學教授 理學博士 岩瀬 慶三君
- 16、含珪酸鐵鑄鐵の濕式處理に關する研究  
九州帝國大學教授 工學博士 井上 克己君
- 17、人工製及び天然產酸化鐵の還元及酸化と磁性  
旅順工科大学教授 工學博士 長谷川 熊彦君  
助手 後藤 有一君
- 18、金屬並に合金の折口に關する研究(鑄込み條件と折口)  
三菱造船株式会社研究所技師 工學博士 飯高 一郎君
- 19、航空發動機用曲軸鋼の選定並に其の使用狀態に就て  
陸軍航空本部々員陸軍航空兵大尉 工學士 高瀬 孝次君
- 20、鋼の焼入效果に及ぼす特殊元素の影響  
秋田鑛山專門學校機械科員 三神 正苗君
- 21、熔融狀態に於ける酸性及鹼基性平爐鋼滓の粘性に就て  
大阪工業大學助教授 工學士 松川 達夫君
- 22、鋼の破壊機構に及ぼすパーライトの影響  
理化學研究所 工學士 黒田 正夫君
- 23、鋼材の材力に及ぼす鍛錬係數の影響に就て  
日本製鋼所技師 工學士 甲藤 新君
- 24、電氣製鋼爐に於ける大電極の缺陷と其改善法  
八幡製鐵所技師 特殊鋼課長 野崎 榮君
- 25、炭素並に滿俺含有量が壓延鋼材の降伏點並に衝擊抗力に及ぼす影響  
八幡製鐵所技師 工學士 城 正俊君
- 26、クロム鋼の冷却條件による變態點及顯微鏡組織の變化  
東北帝國大學教授 理學博士 村上 武次郎君  
東北帝國大學金屬材料研究所員 工學士 岸 本浩君
- 第 11 回講演大會講演者並に演題
- 1、熔融狀態に於ける熔銑爐鐵滓の粘性に就て
- 大阪帝國大學助教授 工學士 松川 達夫君
- 2、工具用特殊鑄鐵の豫備的研究  
住友伸銅鋼管株式会社技師 理學士 絹川 武良司君
- 3、白鉄鑄鐵の脱炭に就て  
戸畑鑄物株式会社冶金研究所 理學士 内藤 逸策君
- 4、鑄鐵の腐蝕現象(第 1 報)  
大阪帝國大學助教授 工學士 多賀谷 正義君
- 5、鑄鐵の流電氣腐蝕に及ぼす成分並に組織の影響  
新潟鐵工所技師 工學士 齋藤 彌平君
- 6、電氣銲接法に依る銲着鐵の電磁氣的性質に就て  
大阪帝國大學講師 工學士 岡田 實君
- 7、電弧銲接棒被覆劑の 2、3 の特性に就いて  
鐵道大臣官房研究所技師 工學士 柴田 晴彦君  
鯉淵 正夫君
- 8、高溫度抽出法による鐵鋼中の瓦斯定量に就いて  
日本特殊鋼合資会社技師 工學士 矢島 忠和君
- 9、X 光線に依る鐵鋼の定量分析に就て  
東京帝國大學講師 工學博士 志村 繁隆君
- 10、石灰窒素による鋼の表面硬化  
東京工業大學教授 工學博士 山田 良之助君  
東京工業大學 工學士 横山 均次君  
東京電氣株式会社 工學士 江川 朗一君
- 11、窒素硬化に及ぼす  $Al, Cr, Mn, Ni$  の影響  
三菱航空機株式会社名古屋製作所 工學博士 石澤 命知君
- 12、電氣鐵鈹の製作に就て  
川崎造船所製鉄工場技師 工學士 西山 彌太郎君  
工學士 中島 道文君
- 13、和鋼の製造に就て  
東京帝國大學名譽教授 工學博士 俵 國一君
- 14、高周波誘導電氣爐の研究(第 4 報)  
芝浦製作所技師 中村 素君
- 15、鐵の磁氣的性質に及ぼす燐の影響に就て  
明治專門學校教授 マスター・オブサイエンス 嘉村 平八君
- 16、非金屬チタン化合物の鐵に及ぼす二三の影響に就て  
東京帝國大學工學部冶金學教室 砂鐵研究室 工學博士 梅津 七藏君
- 17、滿俺の添加による鐵-セメントタイト-硫化鐵合金の平衡狀態の變化  
東北帝國大學助教授 工學士 佐藤 知雄君
- 18、ニッケル、タングステン炭素系狀態圖  
附 燒結炭化タングステン合金の膠結劑としての鐵ニッケル、コバルトの優劣に關する一考察  
東北帝國大學助教授 工學博士 武田 修三君  
工學士 桂 寛一 郎君
- 19、鋼の焼入膨脹速度に及ぼす特殊元素の影響  
東北帝國大學金屬材料研究所教授 理學博士 村上 武次郎君  
工學士 八田 篤敬君
- 20、鋼を主成分とする銅-珪素-亜鉛系の平衡狀態に就て  
大阪帝國大學教授 工學博士 山口 圭次君  
工學士 森 永卓一君
- 21、耐蝕アルミニウム合金合せ板に就て  
古河電氣工業株式会社技師 工學士 鳥羽 安行君
- 22、電氣抵抗線用鐵合金の研究  
東京帝國大學助教授 工學博士 三島 徳七君
- 23、シルクロム鋼の脆性原因に就て  
東北帝國大學講師 大同電氣製鋼所囑託 工學士 錦 織清治君
- 24、軟鋼の時效と降伏點(幻燈使用)

財團法人 理化學研究所 工學士 黒田正夫君

25、オーステナイト鋼に就て  
日本ニツケル情報局技師 ドクトル、オブ サイエンス 藤原唯義君

26、鐵鋼及特殊鋼の高温度硬度に就て  
東北帝國大學教授 工學博士 濱住松二郎君

27、刃物の切味に就ての 2、3 の關係  
東北帝國大學金屬材料研究所長 理學博士 石原寅次郎君  
通俗講演

1、鑄物に就て 海軍造機中將 工學博士 石川登喜治君

2、材料試験に就て 京都帝國大學名譽教授 工學博士 松村鶴藏君

3、鋼の焼入に就て 東北帝國大學總長 理學博士 本多光太郎君

(別項) 以上

日本鐵鋼協會俵博士記念資金取扱規則

第一條 本會ハ本規則ノ定ムル處ニ依リ俵博士記念資金寄贈者ノ申出ニ係ルハ次ノ指定條件ヲ實施スルモノトス

寄附申込書

一金五千圓也

元東京帝國大學教授工學博士俵國一氏記念ノ爲メ同博士ノ門人知友相計リ募集致候記念資金ノ内頭書ノ金額ヲ俵記念資金ノ名ヲ以テ貴協會ニ寄附致候間御受納ノ上ハ元金ヲ据置之ヨリ生ズル利子ヲ以テ同博士ヲ永遠ニ記念スルニ適當ト認メラル、事項ニ付必要ナル費用ニ充ツル様御取計相成度此段申込候也

昭和9年1月27日 俵工學博士功績記念會委員總代

第二條 本資金ハ公債其他確實ナル債券ヲ購入シ之ヲ信託會社ニ供託シ又ハ銀行ニ保管ヲ依頼シテ永久ニ保存シ其ノ利子ノミヲ利用

スルモノトス

第三條 前條ノ資金ヨリ生ズル利子ヲ以テ次ノ事業ヲ行フモノトス  
一、日本鐵鋼協會々誌「鐵と鋼」ニ掲載セラレタル論文中前一箇年ノ實績ヲ審査シ學術上及技術上最モ有益ナル論文寄稿者各一名ニ對シ毎年一回賞金ヲ贈呈スルモノトス

第四條 前條ノ論文審査ハ本會理事及編輯委員之ニ當リ評議員會ノ決議ヲ經テ候補者ヲ決定スルモノトス

第五條 賞金贈呈式ハ原則トシテ毎年一回本會通常總會ニ於テ之ヲ行フモノトス但シ場合ニ依リテハ贈呈式ヲ略シ直ニ受領者ニ送金シ之ヲ總會ニ報告スル事アル可シ

第六條 本賞金ハ本會ノ他ノ賞牌又ハ賞金ニ之ヲ加授スルヲ妨ゲザルモノトス

第七條 記念資金ノ利子ニ剩餘アル時ハ之ヲ銀行ニ預入レテ利殖シ將來同一事業ノ資金ニ充當スルモノトス

第八條 記念資金ノ收支ハ毎年一回之ヲ本會通常總會ニ報告シ日本鐵鋼協會々誌「鐵と鋼」ニ掲載スルモノトス

附則 昭和九年二月二十一日評議員會ニ於テ議定ス

但シ本規則ノ運用ハ昭和十年一月ヨリ之ヲ實行スルモノトス

本會定款及定款施行細則改正

『改正定款』

第一條 本會ハ日本鐵鋼協會ト稱スル社團法人トシ事務所ヲ東京市麴町區丸之内三丁目番地2番地三菱21號館ニ置ク但シ必要ニ應ジ支部ヲ設ク其位置ハ評議員會之ヲ定ム

『改正定款施行細則』

第七條 役員ノ改選ニ就テハ豫メ評議員會ニ於テ候補者ヲ推薦シ總會ノ日ヨリ少クモ2週間前ニ正會員名簿ト共ニ之ヲ正會員ニ配付シ參考ニ供スヘシ

定款第16條ノ理事中ニハ會長ヲ含マサルモノトス

昭和八年度會計報告

昭和八年度收支決算表

(自昭和八年三月一日至昭和九年二月末日)

収入		支出	
科目	金額	科目	金額
維持會員會費	5,200'00	會誌印刷費	9,875'98
正會員會費	6,463'34	版類製作費	1,289'46
准會員會費	5,234'08	別刷印刷費	639'41
入會金	260'00	製鐵業參考資料印刷費	786'34
印刷物分讓料	1,256'86	原稿料	567'30
廣告料	3,425'10	約束郵便料	403'93
公社債利子	3,533'56	報酬及手當	3,474'00
振替貯金利子	119'06	借室料	1,263'75
銀行預金利子	270'35	會合費	240'00
信託預金利子	314'64	工學會費	200'00
寄附金	100'00	事務費	2,385'42
鐵鋼標準試料分讓料	1,692'60	圖書費	2'00
雜收入	10'75	什器費	20'00
社債償還利得金	233'00	大會費	1,738'71
		鐵鋼標準試料買入代金	1,148'80
		假拂金	132'58
		收支差引殘高(財産ニ繰入)	3,945'46
合計	28,113'34	合計	28,113'34

昭和九年度收支豫算表

(自昭和七年三月一日至昭和十年二月末日)

収入		支出	
科目	金額	目	金額
維持會員會費	5,300'00	會誌印刷費	10,000'00
正會員會費	6,500'00	版類製作費	1,500'00
准會員會費	5,500'00	別刷印刷費	700'00
入會金	200'00	製鐵業參考資料印刷費	700'00
印刷物分讓料	1,200'00	原稿料	800'00
廣告料	2,500'00	約束郵便料	500'00
公社債利子	2,800'00	報酬及手當	3,500'00
振替貯金利子	100'00	借室料	1,620'00
銀行預金利子	200'00	會合費	350'00
信託預金利子	300'00	工學會費	200'00
鐵鋼標準試料分讓料	1,000'00	事務費	2,500'00
雜收入	50'00	圖書費	20'00
		什器費	50'00
		大會費	2,000'00
		鐵鋼標準試料買入代金	800'00
		豫備費	410'00
合計	25,650'00	合計	25,650'00

## 財 産 目 録

(昭和9年2月末日現在)

増減欄の+は増-は減を示す

摘 要	昭和8年 2月末日現在	昭和9年 2月末日現在	差 引 増 減
1 圖 書	276.00	276.00	
2 什 器	969.50	1,152.00	+ 182.50
3 有 價 證 券	48,658.34	48,870.84	+ 212.50
	譯	内 譯	
東京電燈會社々債 第7回丙	¥13,000.00	12,847.00	12,870.00
同物上擔保付社債 路	〃 1,000.00	910.00	910.00
東京モスリソ紡績會社々債 第3回波丙	〃 5,900.00	5,767.00	0
山陽中央水電會社々債 第6回ね	〃 6,000.00	5,880.00	5,880.00
京濱電鐵會社々債 第4回波	〃 3,000.00	2,986.50	2,986.50
東京市電氣事業公債 第4回甲	〃 5,000.00	4,300.00	4,300.00
自山水力電氣會社々債	〃 10,000.00	9,900.00	0
北海道拓殖債券	〃 10,000.00	9,965.00	+ 9,965.00
東京府農工債券 第100回	〃 5,000.00	5,000.00	0
日本興業銀行〃 第169回	〃 10,000.00	9,965.00	- 9,965.00
(1) 帝國5分利公債 甲 路	〃 1,000.00	907.00	907.00
(2) 〃 〃 〃 〃 〃	〃 150.00	137.84	137.84
(3) 〃 〃 〃 〃 〃	〃 1,000.00	949.50	+ 949.50
4 借 室 料 敷 金	300.00	405.00	+ 105.00
5 振替貯金(基本金を含む)	96.30	8,682.08	+ 8,585.78
6 銀 行 預 金	6,814.66	1,298.79	- 5,515.87
7 定 期 預 金	2,000.00	2,084.98	+ 84.98
8 信 託 預 金	6,410.46	6,725.10	+ 314.64
9 現 金	79.15	55.08	- 24.07
計	65,604.41	69,549.87	+ 3,945.46
別口(1) 服部博士記念資金現在高			
帝國5分利公債	¥ 20,000.00	20,000.00	20,000.00
三菱銀行特別當座預金		1,275.61	955.83
現 金		3.97	0
計		21,279.58	20,955.83
別口(2) 香村博士寄贈資金現在高			
帝國5分利公債	¥ 20,000.00	20,000.00	20,000.00
三菱銀行特別當座預金		278.06	1,023.93
現 金		2.78	2.03
計		20,280.84	21,025.96
別口(3) 俵 博士記念資金現在高			
東京府農工債券	¥ 5,000.00		5,000.00
計		5,000.00	+ 5,000.00
總 計	107,164.83	116,531.66	+ 9,366.83

備 考 摘要欄の有價證券中 (1) は會誌發行擔保金。(2) は約束郵便擔保金。(3) は鐵鋼標準試料引取擔保金なり。



昭和八年度服部博士記念資金收支決算表

(自昭和8年3月1日 至昭和9年2月末日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
帝國5分利公債	20,000.00	第三回贈呈賞牌製作費1個	458.99
銀行預金	1,275.61	第四回贈呈賞牌地金代前渡金	320.00
現金	3.97	賞金贈呈(5名)	500.00
公債利子	1,000.00	表彰狀揮毫料	14.20
銀行利子	24.06	受賞者招待費	15.00
		委員會合費	12.80
		信託手数料	10.00
		郵便費	7.23
		筆耕料	6.82
		雜費	4.77
		帝國5分利公債	20,000.00
		次期へ繰越(銀行預金)	955.83
合計	22,303.64	合計	22,303.64

昭和九年度服部博士記念資金收支決算表

(自昭和9年3月1日 至昭和10年2月末日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
帝國5分利公債	20,000.00	賞牌及附屬品製作費1個	340.00
銀行預金	955.83	賞金7名	700.00
公債利子	1,000.00	委員會合費	20.00
銀行利子	29.00	受賞者招待費	21.00
		信託手数料	10.00
		雜費	25.00
		公債	20,000.00
		次期へ繰越(銀行預金)	868.83
合計	21,984.83	合計	21,984.83

昭和八年度香村博士寄贈資金收支決算表

(自昭和8年3月1日 至昭和9年2月末日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
帝國5分利公債	20,000.00	賞牌製作費	255.37
前年度より繰越(銀行預金)	278.06	寫真代	4.00
公債利子	1,000.00	受賞者招待費	2.50
銀行利子	10.37	賞狀揮毫料	2.30
現金	2.78	筆耕料	85
		雜費	23
		公債	20,000.00
		收支差引殘(銀行預金及現金)	1,025.98
合計	21,291.21	合計	21,291.21

昭和九年度香村博士寄贈資金收支決算表

(自昭和9年3月1日 至昭和10年2月末日)

収入		支出	
摘要	金額	摘要	金額
帝國5分利公債	20,000.00	賞牌及附屬品製作費	350.00
公債利子	1,000.00	受賞者招待費及雜費	10.00
銀行預金	1,025.98	公債	20,000.00
銀行利子	36.00	次期へ繰越	1,701.96
合計	22,061.96	合計	22,061.96

以上報告候也

昭和九年四月三日 社團法人日本鐵鋼協會 工學博士 河村 曉

會長河村曉君議長席に移り次の議事に入る。

○議長(河村曉君) それでは次に議事に這入ります前に時間の節約上投票開票を先に致したいと思ひます。(2)の議題、理事、評議員半数改選の投票開票を先に致したいと存じます、まだ御投票にならぬ方はどうか御入れを願ひたいと思ひます、皆さん済みましたでせうか……それでは茲で開票するのも時間が掛かりますから、別室に於きまして開票いたしたいと存じます、甚だ御迷惑でございますが、島岡亮太郎君と鹽澤正一君に一つ別室で御改めを願ひまして、結果を御報告願ひたいと存じます。

それから昭和8年度の會務報告でございますが、茲に印刷物(前掲報告書)と致しまして詳しく載せてあります、此會務報告は毎月の會誌に何れも掲載致しておりますものを纏めたものでありますから、皆さんは已に御承知のことと存じますから、唯此中特に目立つた項目に付て御説明申し上げたいと存じます、第二の項でございますが會員異動とありまして、昨年度に於きましては185名の會員が増加いたしましたことは誠に喜ばしいことでございます、又維持會員としまして、石原産業海運合資會社、日本鑛業株式會社、中山製鋼所、黒崎鑛業株式會社、株式會社久保田鐵工所、九州製鋼株式會社、吾嬬精鋼所の七口の維推會員が殖えました、茲に御好意を深謝する次第であります。それから5項の庶務事項の中の6號でございますが、日本鐵鋼協會侯博士記念資金取扱規則制

定であります、是は此報告の最後の方に取扱規則が掲げてございしますが、それで御覽の通り、元東京帝國大學教授工學博士侯國一氏記念の爲に功績記念會が組織されまして其實行委員より贈金の中から本會に對して5,000圓を寄贈になりました、其用途に付きましては理事會並に評議員會に於て篤と審議いたしました結果、5,000圓の金額は据置として、それより生ずる利子を以ちまして毎年の始め前年度に鐵鋼協會の會誌「鐵と鋼」に掲載せられた論文の中で學術上及技術上有益なる論文寄稿者に對して各一名づゝ2名に毎年一回賞金を贈呈することに致しましたのであります、どうか將來會誌に對して寄稿の御方は其御合みを願ひたいと存じます、それから其次の5項の中の7號でございますが、日本鐵鋼協會定款第一條中改正とありますのは、日本鐵鋼協會の事務所が會務の發展に連れまして狹隘を感じますので移轉すると云ふことになりました、此移轉は定款に依りまして理事會に於て決議すれば宜いことになつて居ります、それぞれ主務官廳に御願して定款の變更を願つた譯であります、詰り事務所の移轉、元丸の内の7號館にあつたものを21號館に移轉する、其定款の變更であります、それから其次の第8號は、日本鐵鋼協會の定款細則改正でございます、定款細則の改正は評議員會に於て決議することになつて居ります、此の改正の理由は會長選舉範圍に關する從來の疑義を一掃するにありと云ふことであります、本會定



款の十四條には、本會の役員は理事5名内1名を會長とすと云ふことになつて居ります、第十五條に其選舉の規定が決められて、本會の會長は正會員中より正會員之を選舉するものとなつて居ります、それから第十六條には理事は在京正會員中より正會員之を選舉するものとなつて居るのであります、それで詰り理事が5名、内1名會長、會長は理事である、さうすると十六條に依ると會長は在京者でなくても、地方の方でも宜い、斯う云ふことにも考へられる、實際の運用上に於ては今の通りで差支ないのでありまして詰り會長も理事であると云ふことを十四條で規定し、十五條に會長は正會員中より正會員之を選舉すと云ふのでありますから會長は在京者でも地方の方でも宜いことになつて居ります已に第十五條で會長の選舉を規定した以上は、十六條の理事の中には會長を含まないと云ふことは明かなこととありますが併し從來兎角疑義がありましたので定款細則第七條中に「定款十六條の理事の中には會長を含まざるものとす」と云ふことを入れた譯であります、左様御承知を願ひます、それから第九項であります、昨年度に於きまして本會評議員會は、本邦製鐵鋼業の進歩發達に著大なる貢獻のありました中井勵作君、野田鶴雄博士の兩氏を名譽會員に推薦しまして、それぞれ名譽會員になられたのであります、是は定款に依りまして評議員會の審議に依つて決定したものであります、茲に御報告と同時に拍手を以て皆さんの御賛同の意を表されん事を希望致します……（拍手起る）

其他の會務のことは皆さん御覽下されば分りますから省略いたします、尤も今の會務報告中に御質問がありますればお答えいたします……御質問ございませぬやうですから、それでは昭和8年度の會計報告收支決算報告に移ります。

### 3. 報告及議事

次に昭和8年度收支決算報告に移ります、8年度の收支決算は幸にして非常なる好成绩を収めまして、本會として未だ嘗つてなかつたことであります、それは主に此維持會員の増加、それから事務員諸君の盡力に依りまして廣告料の増收を圖つたのであります、一方八幡製鐵所より一手頒布權を得ました鐵鋼標準試料の分讓料に於て相當なる収入があつたと云ふやうなことで収入は増加し、又一方支出の方も、會務の進展に伴つて雑誌其他の印刷物の支出が多くなりましたけれども、差引剩餘金3,945圓と云ふものを生じた譯でございますが、今後と致しましては益々會務の發展に伴ひまして印刷などの費用は相當に増加いたすだらうと考へます、又一方公社債の利子に至りましては現今6分5厘又は7分の利率でありますものが、追々と償還されまして新たに買入れるものは4分5厘と云ふやうなことになるのであります、將來に於きましては相當に緊縮方針を探らねばならぬと考へて居る次第であります、此昭和8年の收支決算表に付て何か御質問はありませぬでせうか如何でせうか……（異議なし）……それでは御異議ありませぬやうでございますから、其次の昭和9年度の收支決算を御承認願ひたいと存じます、是は前年度の是までの成績に依りまして成るべく確實なる數字を選んだものであります、前申上げましたやうに前年度の公社債の利子は3,500圓ばかりでありましたけれども、2,800圓位に減るものと見て居ります、又廣告料の如きも、是は果して前年度のやうな好成绩を収めるや否や分りませぬ、是も多少内輪に見て居ります、其外鐵鋼標準試料も昨年は5,000何圓の収入がありましたけれども、一度試料が行渡り

ますと後なかなか賣れないものでありますから、是も200圓位の程度の収入に見てある譯であります、で合計の収入が25,650圓で支出の方は豫備費410圓を合せ合計25,650圓となつて居る次第であります、此豫算は如何でございますか？、是は決議事項であります……

〔異議なし〕と呼ぶ者あり〕

○議長(河村曉君) 御異議ないと認めまして、次に此の表の終りの方に財産目録が掲げてございまして、此財産目録で御説明申上げますことは、ずつと右の端にある行であります、「マイナス」とありますのは昨年中償還になつた社債であります、「プラス」は其償還金を以て更に債券を購入したのであります、本會に於きましては利廻の良き社債方面のものよりも寧ろ公共團體の債券類に移る方針で以て確實を期する方針にして居ります、會社方面の社債の償還になつたものは大概或は農工銀行、興業銀行の債券であるとか北海道殖産債券とか云ふ方に異動して居る譯であります、それから矢張り右の方の行で、振替貯金が8,585圓殖えて居ります、銀行預金は5,515圓減つて居りますが、是は振替貯金と銀行預金の利子を參酌しまして、振替貯金の利子のよい時は振替貯金を多くし、銀行預金が良い時は銀行預金を多くすると云ふ方針でございます、其方針の下に「プラス」、「マイナス」が始終あるのであります、結り其中程に掲げてありますが、基本的の財産は昭和8年2月末の現在が65,604圓であつたものが、昭和9年2月末日現在は69,549圓と云ふものであります、3,945圓の財産増加であります、又別口と致しまして、(1)の服部博士記念資金現在高、是は賞牌其他賞金の支出の關係上昨年度末よりも現在323圓ばかり減つて居ります、それから香村博士の寄贈資金の現在高は昨年度末よりも745圓ばかり増して居ります、それから俵博士の記念資金が新たに5,000圓加はりまして、總財産が昨年末には107,000圓でありましたのが、9年2月末には116,000圓になりまして、9,366圓の増加になつて居ります、それから規則に依りまして服部博士記念資金と、それから其記念資金の8年度の收支と、それから9年度の豫算と、それから香村博士寄贈資金の8年度の收支と、9年度の豫算が附けてありますが、是は簡單でございますから、此表に依つて御覽を願ひまして、説明を略したいと存じます、何か御質問があればお答えいたします……それでは御異議ございませぬければ次の「ホ」の方に移ります、日本鐵鋼協會定款改正でございます、是は定款「第三十三條、正會員ノ會費ハ1箇月金75錢、准會員ノ會費ハ1箇月金60錢トス」とありますのを、「正會員ノ會費ハ1箇月80錢、准會員ノ會費ハ1箇月65錢トス」詰り月5錢づゝの増額を致したいと云ふことであります、從來とても會員の會費を以てはなかなか雑誌其他の經費を支辨することが出来ませぬので、常に維持會員の増加、或は寄附金の募集等に努めて、成るべく會員の負擔を増加しないと云ふことに努めて來たのであります、本會では創立以來十有九年の間未だ會費を増徴したことがありませぬのであります、今日に於ては維持會員も53口に達し、相當に外部から援助を受けて居るのでありますから、此上の發展に對する經費の増加は會員自らも亦犠牲を拂ふと云ふことが當然であると思へまして、此案を提出した譯でございます、尙ほ先程申しましたやうに有價證券並預金の利子と云ふものが非常に將來低下して、本會の収入上に影響を及ぼすやうな有様になつて居ります、此際以上の月額5錢の負擔増加を御願ひして、會の基礎を安固ならしむとするものでご

ございます、皆さん如何でせうか。

〔異議なし〕と呼ぶ者あり

○議長(河村曉君) それでは御異議がないと認めます、次に役員半数改選投票開票の結果の御報告を願ひます。

○島岡亮太郎君 それでは只今の選挙の結果を御報告いたします例に依りまして投票数は略すことに致しまして、當選した方の御名前だけを申上げること致します。

- 會長 野田 鶴雄君
- 理事 野田 鶴雄君 水谷 叔彦君 渡邊 三郎君  
松下 長久君 吉川 晴十君
- 評議員 岩瀬 徳藏君 井上 克巳君 井口 庄之助君  
濱田 彪君 林 狷之介君 西村 小次郎君  
大塚 榮吉君 小倉 正恒君 小田 切延壽君  
加藤 榮君 門野 重九郎君 川上 義弘君  
川崎 舍恒三君 横田 文吉君 横堀 治三郎君  
田宮 嘉右衛門君 中井 勵作君 永田 五郎君  
永安 晋次郎君 村上 武次郎君 梅根 常三郎君  
久保 田省三君 工藤 治人君 黒田 泰造君  
牧 田 環君 伍堂 卓雄君 朝倉 希一君  
齋藤 大吉君 寒川 恒貞君 澁澤 正雄君  
野田 氏の補缺 松本 健次郎君

以上の方々がお當選に相成りました。御報告申上げます

(拍手起る)

○議長(河村曉君) 是で議事は終了したのであります其れでは次のプログラムに移ります (拍手起る)

### III. 服部賞牌並服部賞金贈呈式

#### 第四回服部賞牌並服部賞金受領者推薦理由書

賞牌 山岡 武君

(イロハ順)

- |    |        |   |        |
|----|--------|---|--------|
| 賞金 | 渡邊 直行君 | 同 | 加藤 孝治君 |
| 同  | 中村 道方君 | 同 | 永澤 清君  |
| 同  | 寺門 茂君  | 同 | 齋藤 新一君 |
| 同  | 砂澤 彌平君 |   |        |

#### 服部賞牌受領者

製鐵所技師 山岡 武君

理由

同氏は大正六年製鐵所に就職以來銑鐵部に勤務今日に至れり。昭和二年製鐵所に於て洞岡製銑工場新設の方針決定後直に之が設計並に建設の擔任者として専ら其衝に當り、昭和八年九月其第一期計畫たる 500 瓩及 700 瓩銑鐵爐及其附屬設備を完成せしめ引續き直接之が操業を擔當し、頃來所期の成績を擧ぐるに至れり。

抑本邦に於ける製鐵原料特に發炭の性質に鑑み前記大銑鐵爐の建設並に操業の成果に就ては一般より疑問視せられし所なるが同氏の周到なる用意と着實なる方法により能く此工事を大成すると共に操業上に於て諸種の困難に逢着せるも着々之を克服し以て略其の豫定の成績に到達せしむることを得たり。

是單に本邦製鐵業發展の先驅たるのみならず又將來に於ける進展に向つて重要な暗示を與ふるものにして其斯界に貢獻する所實に大なりと云はざるべからず。

前記の如きは素より同氏一人の業績の能くし得べきに非ずして有らゆる方面の關係者の努力の綜合的結果に外ならずと雖も同氏の專

ら直接其要衝に當り日夜苦心經營の寄與する所特に顯著なるに鑑み服部賞牌受領者たるの資格充分なるものと認む。

#### 服部賞金受領者

金屬材料研究所囑託 工學士 渡邊 直行君  
理由

渡邊直行氏は昭和四年以來故竹前源藏氏と共に約三年度に亘り防彈鋼を研究せり、即ち特種の測定裝置を考案し防彈効率を定量的に測定し數多の鋼板に就て研究せり。

本研究の結果によれば其最良なるものはニツケル、クロム式鋼板を熱處理せるもので厚さ 4 耗半の鋼板にて 38 式銃丸を 2 米近距離で完全に阻止し且つ丸痕に少しの裂目を生ずることなきを見たり、その詳細は「防彈鋼の研究」にあり此報告書は本邦著名の會社に配布せられて之に依つて防彈鋼製造業者の知識を大に増進せり、其後竹前氏物故されたるにより昭和 7 年より米澤高工出身の小柴氏を助手として研究を進められ一層有効なる防彈鋼を發見せられたり即ちニツケル、マンガンを含む特殊鋼にて約 4 耗の鋼板にて前記の銃丸を完全に阻止し且つ丸痕に少しも裂目を生ぜざるものを得たり。尙ほ最近タンク用として陸軍にて實地試験を行ひたるに最良好なる結果を得たり。以上の業績は服部賞金受領者たるの資格充分なるものと認む。

#### 服部賞金受領者

製鐵所技師 加藤 孝治君  
理由

同氏は明治四十二年製鐵所に入職以來専ら耐火煉瓦の製造に従事し今日に及べり。此間製鐵所の事業の著しき發展に伴ひ耐火材の生産量の増加及び品質の向上に對する要求切實なるものあり。同氏の不屈不撓の研究的態度と合理的工場經營とは能く此要求を満足せしめ斯業の發展に貢獻する所頗る多大なり。今其著しきものに就き具體的に略記すれば珪石煉瓦の製造に就ては製鐵所製鋼作業方法の進歩に伴ふ同煉瓦の品質の改善に對する要求に應じ原料の焼成、粉末度、氣孔度及び水分等の關係を研究し遂に優秀の成品を製作し得るに至れり。近時鋼一噸當り珪石煉瓦消費量の次第に減少しつゝあること一半は製鋼作業の技術の進歩に原因すべきも又一半は煉瓦其のもの品質の改善に依るものと謂はざるべからず。

次に粘土煉瓦に就ては近年獨自の方法を案出し高爐用煉瓦の品質を改良し其使用実績又頗る良好にして既に此方法は製鐵所以外にも採用せられ其の成品が鞍山、兼二浦等の製鐵所に使用せられ以て在來の輸入品を驅逐せり又マグネシヤ煉瓦製出に就ては原料に於て歐洲品に劣るものを採用しつゝ過去數年間種々研究の結果歐洲製品に比肩するものを製造し得るに至れり。如上の業績は素より必ずしも氏一人のみの努力の能くする所に非れども同氏の不斷の努力に俟つこと多大なるは明白なるを以て服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

#### 服部賞金受領者

三菱造船株式會社社長崎造船所  
電氣製鋼工場長 中村 道方君  
理由

同氏は大正八年十一月北米の電氣製鋼業視察歸朝以來三菱造船株式會社社長崎造船所材料實驗場に於て同氏の計畫になる實驗用電氣製鋼爐の研究に従事し鑄鋼及特種精練に従事し繁閑常なき造船造機工

場の要求する鍛材、鑄鋼を經濟的に生産するに當り本法と平爐法との比較研究を進め大正十二年十一月遂に平爐を閉鎖し同十三年四月1,000K.V.A. 電爐を新設し更に之を1,800 K.V.A. に改造し昭和四年五月1,800K.V.A. 2基の電爐と1,500 瓩水壓機1基並に附屬設備を以て鍛鍊鑄鋼及機械加工を總括したる新規の電氣製鋼工場成ると共に其工場長として今日に至れり。

同所電氣爐及其附屬設備は凡て同氏獨自の設計になるものにして最初は僅4分の3 瓩容量の實驗的設備を以て出發し後これを3瓩1基と併用し大正十四年には從來其供給を外國に仰ぎたる帝國海軍用特殊鑄鋼品並に特種磁性を必要とする電機用鑄鋼品を完成せり次で再び歐洲製鋼業視察の後前記電氣製鋼工場新設の計畫を樹立しこれが完成に當り其工場長に就任す同時に造塊鍛鍊作業をも開始せるを以て電氣爐増設の必要に迫られ6瓩1基を加へて2基とし再び其1を同氏の研究結果に基き最高容量15瓩と置換して其經濟價値を向上せしめ之を以て最大20瓩の普通鋼塊を經濟的に生産し得るに至れり續いて特種大横断面を有する20瓩鋼塊の製作を研究すると共に其鍛鍊方法の研究を進め昭和六年九月大断面鍛材の經濟的製作を達成し以て當時價格低廉なる事外國品に譲らざる3,000馬力以上の大型ターゼル機開用クランクシャフトの自給を全からしめたるは其一例として擧げ得べし又普通鋼と併行して電爐本來の使命たる合金鋼に関する研究並に製作を進め鍛鋼品は既に昭和六年以來自給の域に達し最近に至りては特種強靱ニツケルクロム鑄鋼品をも完成するに至れり斯くして電氣爐自體の性能操作及鍛鑄方法等技術上の研鑽と併せ作業能率向上を計り特殊製品の完成と共に生産原價の低下を達成するを得たり而して其研究の一部にして既に發表せられたるものは昭和三年十一月大阪に於ける第四回鐵鋼協會大會上「電氣鋼の透磁性に就て」と題するもの昭和八年六月ストックホルムに於ける萬國動力會議部會上「On Economic Study of Electric Steel Making in Japan」と題するもの及昭和八年四月日本鐵鋼協會第四回製鋼部會に於ては「大断面を有する鋼塊を使用せる鍛材の内部性質」と題するものあり。これ等の發表は又製鋼上好個の參考資料を提供せるものと云ふべし。

以上の業績は服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。以上

### 服部賞金受領者

日本特殊鋼合資會社技師 永澤清君  
理 由

同氏は大正七年東京物理學校卒業後直に東北帝國大學臨時理化學研究所助手として任命せられ、爾後大正十一年迄金屬材料研究所に於て本多光太郎博士指導の下に専ら鐵鋼に関する諸研究に従事したり。大正十一年日本特殊鋼合資會社に轉じ研究課勤務を命ぜらる。同社にありては鐵鋼の科學的研究を目的とし設置せられたる福壽鐵鋼研究所に於て社長渡邊博士指導の下に鋼の性質に関する幾多の基礎的研究を完成したり。特に故松下博士と共に行ひたる「鋼の焼戻機構に関する研究」「焼戻硬化に関する研究」或種鐵合金の可溶性と其の理論」等は廣く内外に於ける専門研究者の注意を喚起したり。

同氏の業績中特筆すべきは「鋼の焼戻脆性に関する研究」にして實に五ヶ年の日子と全幅の努力を傾倒せるものなり。鋼の焼戻脆性は古來多數の研究者に依り研究せられたるものものにも拘らず未だ決定的結論に到達し得ざりし難問題なり。氏は先づ統計的方面に依り廣く現象を觀測して正確に其の特性を認知し、之に基き其の發生機構の理論を樹立したり。該理論は從來のものに比し遙かに透徹的

にして本現象の本性並に實驗的諸事實に明解なる説明を與ふるものなり。

以上の業績に鑑み服部賞金受領者として資格充分なるものと認む。

### 服部賞金受領者

陸軍技手 寺門茂君  
理 由

大正十年四月陸軍科學研究所入職以來一意専心金屬材料の研究調査に従事し克く長上の命を奉じ或は外國地金の研究調査により又は破損兵器の原因探究により我が兵器設計上の參考資料を與へ或は新地金を研究して優秀なる兵器出來の機軸を開く等其の完成せし事項三十種の多きに達す就中耐鑄鋼の研究に關しては大正十三年一月より昭和三年八月に至る長時日を費し内外各國各種耐鑄鋼の性質を明かにし以て陸軍地金規格の基礎を決定せるが如き兵器技術上貢獻せること擧げて數ふべからず。實に陸軍兵器地金進歩發達の誘導者たり。依て服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

### 服部賞金受領者

製鐵所製鋼部特殊鋼課  
電氣爐工場工場長 齋藤新一君  
理 由

同氏に明治三十八年一月製鐵所に入職、坩堝工場に鑄鋼職として勤務し大正六年二月電氣爐工場新設せらるゝに及び電氣爐伍長を命ぜられ爾後十七年電氣爐職として終始恪勤倦む所を知らず。其の間本邦電氣機鐵心用珪素鋼板及び不鏽鋼、鋼塊製作に従事し刻苦精勵良好の成績を擧げ其の勤勞勤からずして製鐵所より授賞せらる。

氏は其の職に臨むや各種特殊鋼々塊製作の難關に際し常に研鑽勉勵苟もせず身を以て部下職工を指導者勵し善く其の任務を遂行す今日電氣爐優良職工の殆ど全部は氏を薰陶に依る所多く更に一般新設工場にして範を八幡製鐵所に求むるもの亦其の實作業上の訓練に氏の努力に俟つ處多し、即ち同氏は製鐵所電氣爐作業の實際に通饒し各種特殊鋼塊の製作に多大の貢獻を爲したるものにして製鐵所は曩に工場を命じ雇員扱として待遇せり。以上の業績は服部賞金受領者たるの資格充分なるものと認む。

### 服部賞金受領者

日本鋼管株式會社技手 砂澤彌平君  
理 由

同氏は大正四年仙臺高等工業學校を卒業し昭和三年三月日本鋼管株式會社に入社し専ら鋼材壓延作業に従事し今日に及べり。

此間從來本邦に於て製造困難なりし鍛接鋼管用材料たる「スケルプ」の製造に對して特に意を注ぎ努力研究の結果從來の小形ロール機を以て經濟的に之を壓延する事に成功し現今に在りては同社に於て使用する「スケルプ」の全部を自給し得るに到れり。同氏の業績は服部賞金受領者たるの資格充分なりと認む。

### 服部賞牌並服部賞金贈呈式式辭

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河村 驍君

本年の受賞者は御手許に配布いたしました印刷物に記載の通りでありまして八幡製鐵所技師山岡武君に服部賞牌を、金屬材料研究所

の渡邊直行君外 6名に對し服部賞金を贈呈いたすものであります、推薦理由書は是亦御手許に配布したる印刷物に詳しく記載いたしてありますから御覽を願ふこととし、今其功績の大要のみを申述べますと、賞牌受領者山岡武君は八幡製鐵所の洞岡製銑工場の 500 磅及 700 磅熔鐵爐の設計並操業に對して功績顯著なるものでありまして、是は服部博士記念資金取扱規則第七條に該當するものであります、次に賞金受領者渡邊直行君の防彈鋼に關する研究は軍用鋼材の進歩發達上貢獻する所多大なるものであります、又賞金受領者加藤孝治君は製鐵鋼作業上重要な材料たる各種耐火煉瓦の製造技術の進歩發達に多大の貢獻あるものであります、又中村道方君は電氣製鋼、特に鑄鋼、鍛鋼の技術上の進歩發達に對する貢獻多大なるに依るものであります、又永澤清君は鋼の焼戻に關する各種の性能中、特に焼戻脆性に付ての研究が其發生機構の理論を鮮明ならしむるに多大の貢獻あるものに依るのであります。寺門茂君は多年の陸軍兵器用諸地金の研究が其進歩發達に多大の貢獻あるものであります。次に齋藤新一君は電氣爐實地作業上の進歩發達に多年の貢獻あるによるものであります。次に砂澤彌平君は鍛接鋼管用材たる「スケルプ」の製作自給に對して多大の貢獻あるものであります。以上 7名の賞金受領者は何れも服部博士記念資金取扱規則第八條に該當するものであります。尚ほ以上の賞牌並に賞金受領者に對しましては何れも規則に依り、服部博士記念資金委員會に於て慎重審議の結果、多數の候補者中より選出決定したものでありまして、茲に各位の平素の御

苦心と御盡力に對し深厚なる敬意と祝意とを表し、尚ほ將來に於ても斯界の爲に一段の御盡力あらむことを切望する次第であります。簡單ながら以上を以て祝辭に代へまして、之れから贈呈式を行ひたいと思ひます。

此時石原贈呈式委員立ちて音聲朗かに次の各氏を讀上げられ會長自ら壯嚴に贈呈されたり。

服部賞牌受領者 山 岡 武君

服部賞金受領者 (いろは順)

渡 邊 直 行君	同	加 藤 孝 治君
同 中 村 道 方君	同	永 澤 清 君
同 寺 門 茂君	同	齋 藤 新 一君
同 砂 澤 彌 平君		

受領の都度満場拍手を以て祝意表せり。

○會長(河村曉君) それでは之で總會全部を終了いたしました、序でながら申上げて置きますが、香村賞牌の第三回受領者に付きましては、候補者に對しまして種々協議を重ねましたのでありますが、まだ審議未了でありまして、本日贈呈式を行ふ運びに至らなかつたことは誠に遺憾とする所でありまして、是は何れ適當なる機會に於て贈呈式を舉行することを期待いたして居る次第でございます、ちよつと附加へて置きます。(拍手起る)(午後零時五分閉會)

## 日本鐵鋼協會第12回講演大會狀況報告

本會創立第 19 回通常總會開會を機會とし第 12 會講演大會並第 10 回研究部會を開會し豫想以上の盛況を呈したり其の概況を此に報告せんとす。

計劃及準備、實行委員例に依り本部所在地に於て開催の場合は會長を委員長とし理事、前會長並に編輯委員にて夫々任務分擔に就く、

### 日本鐵鋼協會第 10 回研究部會

4 月 2 日(月曜日) 午前 9 時 30 分 開會

會場 東京市麴町區丸ノ内三丁目四番地 帝國鐵道協會三階講堂

出席者 各工場及本會推薦委員並に本會役員等にして其計 58 名

外傍聽者數名

議題 第 6 回研究部會 電氣製鋼爐の操業並に構造に付き改善すべき點如何、II (昨年の繼續)

準備實行擔當者 吉川博士外編輯委員一同

配布の參考書類 (1) 日本鐵鋼協會第九回研究部會、第 5 回製鋼部會、電氣製鋼爐に關する議事録 (2) 第 10 回研究部會討議項目順序に對する回答により訂正又は追加表 (3) 委員出缺席簿 以上 3 種

## 研究部會開會の挨拶

日本鐵鋼協會々長 工學博士 河 村 曉 君

之から本會第 10 回研究部會第 6 回製鋼部會第 2 回電氣製鋼部會を開催し昨秋に引續き「電氣製鋼爐の操業並に構造に就き改善す可き點如何」なる議題を以て討議を始めたいと思ひます、最近電氣製鋼爐は時局の關係上益々其重要性を發揮するに至り昨秋名古屋に於て研究部會開催後に於ても漸次電氣爐の新設並に擴張が次から次へと續出して益々盛況に赴きつゝある模様伺ひますことは誠に邦家斯

界の爲め慶賀の至りであります、昨秋は午前中講演を御願致し午後は概括的に討議を行つたのでありますが研究項目も多數に上つて居りますので今回は講演を行はず午前午後に入り討議を致すことになりました、何卒一層細に入り微に入り緩々御討議あらんことを希望致します。

次に委員長の選舉であります但し前會の引續きでありますので川崎舎博士に御願ひ致したる處同君は時節柄非常